授業科目　高次神経障害評価学

【担当教員名】	対象学年	3	対象学科	作業
能登　真一	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

【一般目標：ＧＩＯ】
認知や行為、言語といった脳の高次機能の障害である高次神経障害について、全容を把握するとともに種々の症状に対する理解を深め、各評価方法を学習し身につける。

【行動目標：ＳＢＯ】
1.高次神経機能の全体像とそれをひきおこす対象疾患について理解できる。
2.高次神経障害の評価で注意することを述べることができる。
3.個々の症状の臨床像を述べることができる。
4.個々の症状の定義を述べることができる。
5.症状にあった評価法を選択することができる。
6.様々な評価法を正しく実施することができる。
7.対象者の高次神経障害の全体像を把握し、評価計画を立てることができる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	高次神経機能とそれらをひきおこす対象疾患	1	講義
2	高次神経機能評価の概要	1,2	講義
3	全般的機能	3,4,5	講義・演習
4	注意	3,4,5	講義・演習
5	記憶	3,4,5	講義・演習
6	失語	3,4,5	講義・演習
7	失行	3,4,5	講義・演習
8	その他の左半球症状（Gerstmann症候群、構成障害など）	3,4,5	講義・演習
9	半側空間無視	3,4,5	講義・演習
10	その他の右半球症状（病態失認、着衣障害など）	3,4,5	講義・演習
11	失認	3,4,5	講義・演習
12	前頭葉症候群	3,4,5	講義・演習
13	認知症	3,4,5	講義・演習
14	全体像の把握と評価計画の立案	6,7	講義・演習

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書	高次脳機能障害学	石合純夫	医歯薬出版	2003年・4200円
参考書	神経心理学入門	山鳥　重	医学書院	1985年・6400円
	（臨床リハ別冊）高次脳機能障害のリハビリテーション	江藤文夫・他偏	医歯薬出版	2004年・5040円
その他の資料				

【評価方法】
小テスト・・・・・20％
期末試験・・・・・80％

【履修上の留意点】